

# はなさきむらだより



皆さま、新しい年を迎えましたが、戦争を引き起こしかねない危険な状況が生じております。また、ノーベル平和賞に、ICANが核兵器廃絶を訴えて活動していることが評価されて選ばれるなど、反戦平和の活動も発展しております。

この重要な時代に、社会福祉法人もその活動内容をしっかりと確立していく必要があると考えております。昨年からは、法人設立以来部分的な手直しでやり過ぎてきた諸規程を社会保険労務士の援助を受けて、全面的・総合的に改定いたしました。管理職・管理者を中心に、全職員の研修テーマとして作り上げてきたものが、十二月に行われた理事会で承認され、平成三十年一月一日から実施することになりました。

また、この動いていく時代に適応できる組織体制を作り、法人の未来を考えていくための活動チームとして、この三年活動を積み上げてきた事務局会議の名称を変え、「法人管理者会議」とし、今までの情報交換に加え、はなさきむらの中長期計画を検討することに致しました。居宅介護支援事業所の設置、はなさきむら作業所の移転、重度障がいのある人の入れるグループホームの設置、収益事業の展開など、はなさきむらの利用者や職員の皆さまの未来を切り開く活動を進めてまいります。チームの力で、はなさきむらの発展を実現する体制が整ったことを、皆様に報告いたします。

今後とも変わります、ご支援・ご協力、そしてご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。

「はなさきむらの今後の展望について」  
理事長 目黒 輝美

昨年度は、関西福祉大学での「日本人間関係学会第二十四回全国大会」で発表をさせて頂いたため、「住み慣れた地域でずっと暮らすためにフォーラム」ですが、今年度は「人生100年時代をどう生きる？」と題して、加東市健康福祉事務所長（医師）の柿木達也氏からの講演をはじめ、NPO法人いねいぶる理事長・宮崎宏興氏、愛心園施設長・中川裕美子氏をお招きし、第一部として「親を亡くした後、生きる上で困難を抱える人たちを地域でどう支える？」を開催することになりました。皆さまお誘いあわせの上、ご参加お待ちしております。

住み慣れた地域でずっと暮らすために  
フォーラム二〇一八

日付：2018年2月18日(日)  
時間：13:30~16:00  
場所：中央市役所 4階

定員：70名  
参加費：無料  
事前申し込み：2018年2月10日迄  
申し込み問い合わせ：NPO法人さつき  
電話・FAX 0790-62-1015

主催  
・住み慣れた地域でずっと暮らすために  
フォーラム実行委員会  
・中央市の在宅生活と看取りを考える会

## 「居宅介護支援事業所」とは??

居宅介護支援事業所とは、要介護(1~5)の認定を受けた方が最適な介護サービスを受けることができるようサポートをしてくれる専門家、ケアマネジャーが所属する場所です。自宅で介護保険サービスを利用するために必要なケアプランを、ケアマネジャーが作成・管理するようになります。

その役割は、自宅で介護を受けている要介護者が、適切に居宅介護支援サービスを利用できるように、居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー（介護支援専門員）がサポートします。

●サービスの目的  
被介護者の身体的・精神的な状況に合った適切なサポートを行い、自立した生活を送れるように支援することを目的としています。

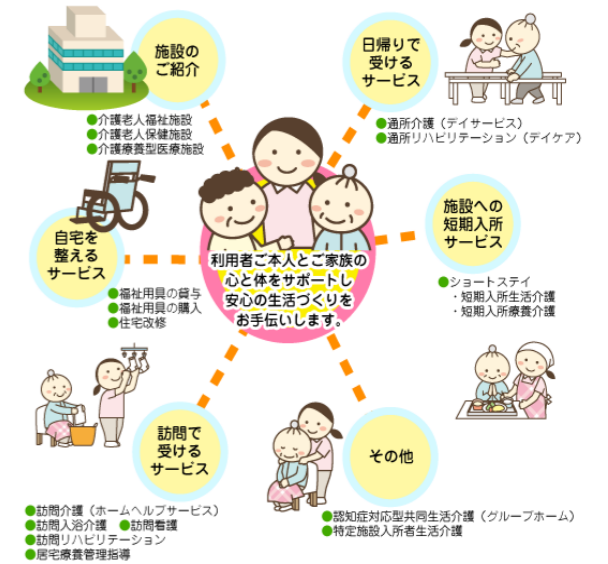
●サービス内容  
担当のケアマネジャーが、被介護者からの相談や要望に応じてケアプランを作成し、それに沿って適切な介護サービスの提供者・事業者との調整を行います。

### 居宅介護支援を利用する方法

- ・ 要介護認定を受ける
- ・ 被介護者が住んでいる地区の居宅介護支援事業所を教えてください
- ・ ケアマネジャーを選定する

自宅で自立した生活をするための  
ケアプランの作成やサービス調整

## おまかせください!



●対象者と利用料  
居宅介護支援サービスを受けるには、要介護1以上の認定を受けていることが条件です。ケアプランの作成やケアマネジメントサービスはすべて介護保険が適用されるため、自己負担はありません。

《発行》  
社会福祉法人 はなさきむら

〒679-5203 兵庫県佐用郡佐用町米田字寺山304-24  
TEL 0790-78-1350 FAX 0790-78-1221  
E-mail hanasakimura@hanasakimura.jp

- ・ 多機能型事業所はなさきむら作業所
- ・ 特別養護老人ホームはなみずき
- ・ グループホームコスモス
- ・ なのはな
- ・ ふきのとう
- ・ すみれ
- ・ グループホームあさがお
- ・ 放課後等デイサービスつぼみ

- ・ 生活介護・就労継続支援B型・就労移行支援
- ・ 介護老人福祉施設・短期入所生活介護
- ・ 共同生活援助
- ・ 指定生活介護事業所
- ・ 障害者児指定特定相談支援事業
- ・ 就労継続支援A型・就労移行支援
- ・ 共同生活援助
- ・ 障害児通所支援



はなさきむらの評議員として、務めてく  
ださっていましたが、松田朋子氏が評議員を  
退任されることとなりました。一月十日に  
行われました評議員選任・解任委員会  
で解任が承認され、新たに小林勝年氏の評  
議員としての承認が全会一致でなされま  
した。

「退任・異動」

はなさきむら評議員	松田 朋子
なのはな	施設長 小林 正和
グループホームコスモス	管理者 吉井 秀美

「就任・着任」

はなさきむら評議員	小林 勝年 (鳥取大学教授)
グループホームコスモス	管理者 小林 正和
グループホームコスモス	サービス管理責任者 吉井 秀美

理事長の挨拶の中でもありましたが、はな  
さきむらでは来年度の新規事業として、介護  
サービス事業のさらなる拡大に、法人内での  
介護老人福祉施設(はなみずき)、短期入所生  
活介護(はなみずき)に続く、居宅支援事業の  
立ち上げを理事会での承認のもと、始めてい  
きたいと思っております。

人と介護をつなぐ居宅介護支援サービスと  
して、両親や兄弟姉妹の介護をすることに  
なったものの、どのような施設やサービ  
スを選べば良いかわからないという人は少な  
くありません。ケアマネジャー(介護支援専門  
員)が行う居宅介護支援は、介護サービスが必  
要な人と介護サービスをつなぐ架け橋のよう  
な役割を担っているといえます。

介護について不安を感じている場合は、一  
人で悩みを抱え込まず、専門家に相談してみ  
るのも一つの手法となります。  
相談には、利用料金もかからないので、居宅  
介護支援サービスを最大限有効活用し、介護  
生活を少しでも楽なものにしていただける  
よう努めていきたいと思っております。

来年度中の開設を目指し、現在準備を進め  
ておりますので引き続き宜しくお願い致し  
ます。

事故や急病で呼吸や心臓が止まっ  
て一刻を争うとき、人命救助にあたる地  
域の拠点「救命ステーション」の標準交  
付式表彰式が九月八日に佐用消防署で  
行われました。町内の病院、福祉施設、  
工場、公共施設など、五十事業所が登録  
救命要請が年々増える中、各事業所に  
設置されているAED(自動体外式除  
細動器)を活用し、救急車が到着するま  
での間に救命活動を行い、救える命を  
一分一秒でも早く救おうというもので  
す。

特別養護老人ホームはなみずきでは  
現在各フロアに一台ずつ設置し、はな  
さきむら作業所にも一台と、緊急時に  
備えております。  
今回の取り組みは施設内外問わず生じ  
た、あらゆる事態に対応出来るように  
する為のものとなっております。  
登録された事業所等のAEDを有効  
に活用することにより、住民が安全・  
安心に暮らせる体制を推進することを  
目的とされています。



「ひょうごの福祉」に掲載されました

兵庫県社会福祉協議会が毎月発行します、「ひょうごの福祉」の地域で支え合い、地域を元気にする取り  
組みを紹介する、「みんなでつくるひょうごの福祉」にはなさきむらの道の駅「ちくさ」が紹介されました。

社会福祉法人はなさきむらは、「道の駅」を運営して  
いるよ。障害者の就労の場づくりと、名水百選の千種  
川の自然を生かした地域づくりを進めているんだ。そ  
の取り組みを見てみよう。



みんなでつくる  
ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする  
取り組みを紹介します。

社会福祉法人が運営する  
道の駅「ちくさ」

道の駅「ちくさ」は、宍粟市の中心  
部から車で30分ほどの、佐用町と宍  
粟市の境にある。この道の駅は、も  
ともとは千種町内の住民団体が運  
営していたが、経営難となったこと  
から、社会福祉法人はなさきむら  
(佐用町)が宍粟市から指定管理を  
受けて運営しており、全国的にも珍  
しい。同法人は、障害のある利用者  
の働く場としてレストランを運営  
できれば、はなさきむら作業所(就  
労継続支援B型・就労移行支援・生  
活介護の出張所として)地域活動の  
場が広がるかと考え、名乗りを上げ  
た。運営が決まった今年2月の時点  
で道の駅は、雑草が生え放題で、ほ  
こりだらけの状態であったが、利用  
者と共に清掃から取り組み、今年4  
月にリニューアルオープンした。

障害者の就労の場、交流の場

道の駅「ちくさ」では、毎日5人  
ほどの利用者がレストランで調理  
や接客、花壇の管理などを行う。夏  
には、河原やドッグランの草むし



丁寧に管理された四季の草花が観光客を出迎える



レストランでの調理・接客を通じて、  
地域の人や県内外の観光客との交流を深める

道の駅「ちくさ」での挑戦

～観光と福祉がつなぐ地域の活性化～

り、冬には雪かきなどの作業にも取  
り組む。

目黒理事長は、「ここがにぎわった  
ら地元の人もうれしい。地域の方々  
との触れ合いや働く場があること  
で、障害のある方が自立した地域生  
活を営めるようにつなげていきたく  
い」と語る。

その言葉通り、障害の状態や本人  
の希望に合わせて道の駅の活動を提  
供することで、運営に従事する人の  
日々の生活が活気にあふれるものと  
なっている。

地域おこしの拠点

オープン後、川辺を開放したパー  
ベキュー会場や、ドッグランなどに、  
多くの観光客が訪れ、地元の住民が

らはかつての活気が戻ったようだ  
と好評を得ている。他にも地元の農家  
が持ち寄った新鮮野菜の販売なども  
行い、売店スタッフは地元の女性が  
担うなど地域の輪が広がっている。  
目黒理事長は、「社会福祉法人が道の  
駅の運営なんてどうなのか、という思  
いもあったが、観光と福祉を融合さ  
せた全国初の道の駅になれば」と話す。

今後は、川辺の石に精通した住民  
の協力を得てキッズツアーを開催し  
たり、近くの寺院と連携したイベン  
トを開催したりできないかと、新た  
な展開も模索する。地域に根差す社  
会福祉法人として、地元の資源・自然  
を生かして新しい可能性を開拓しな  
がら、地域を元気づける拠点として  
の役割を見据えている。

取材を終えて

社会福祉法人が道の駅に関わるこ  
とは全国でも例はありませんが、オー  
プンして1年足らずで地域の観光・福  
祉の要になりつつあります。今後の  
はなさきむらの挑戦に注目です。

社会福祉法人はなさきむら  
道の駅「ちくさ」  
宍粟市千種町下河野745-5  
TEL 0790-76-3636